

# 父母の教育に対する期待と高校生の意識

都築 亨 倉田 有邦 富田 昇

## 1. はじめに

このごろの父兄の学校への期待や、教育についての考え方はかなり変わってきているのではないかという様な話が出て、それならば「その変化を探ってみようじゃないか」というのが、私達の共同研究らしきものの出発点だった。それが今から5年前のことである。その時の主たる関心事は、制服についての考え方は生徒よりも父母の年代層に大きくかゝって変わってきているのではないかということだった。現在の高校生の親たちは大正世代から昭和世代に移行し、しかも昭和9年生れ以後の純粋戦後派に移っているのだから、その考え方が教育のいたるところに反映しているのではなかろうか。つまりところ学校における生徒指導のやりにくさは家庭環境の質的变化、親の意識と学校の生活指導路線とのギャップによるものではないか。昭和51年、52年の紀要に「中等教育についての父兄の社会意識」<sup>(1)</sup>および「父母の教育要求についての世代論的分析」<sup>(2)</sup>としてまとめたのは、そうした問題意識によるものであった。

その折には予期したほどにははっきりした結果はみられなかった。むしろ若い世代に属する親の方が制服に意味をみつけたり、学校にきびしい指導を望む人が多かったり、そしてその反対に大正世代から昭和1けた世代の方が物わかりのよい回答をされているのを見て驚いたりしたものである。

しかしこのころ、やはり世の中は大きく変わったように見受けられる。進学率就中高校への進学率の上昇カーブはこの所94%で頭うち気味であるが、にもかゝらず過熱する受験競争ムードや親たちの高学歴アスピレーションは、一方では偏差値を判断尺度とする新しい階層原理を高度成長社会の中にもち込むと同時に学校社会を硬直化させ、新学校差を生み、他方では本来家庭が分担していた教育機能一しつけ、社会生活への適応などの役割を放棄させて、家庭と学校との間を疎隔させる。非行生徒の増加とか家庭内暴力とかがジャーナリズムでメインのタイトルになるのは多少はズーム・アップのしすぎという面がないわけではないが、潜在的要因はいたるところ家庭と学校に内在しており、つきつめていうならば受験戦争、乱塾時代、非行、家

庭内暴力、家庭の崩壊 等々のことばに表わされる教育問題はなべて高校生・中学生そのものの問題というよりは、父母の意識、学校と子供への期待に起因する所の方が大きいと思われる。現在中学校・高等学校の教育課程の改訂が進行中であるが、その改訂の方向はこの父母の期待に込んでいるといえるだろうか。又高校生自身の意識は、その改訂の方向とも父母の期待するところともかなり遠い所にひろがっているのではなかろうかというのが私どもの仮説であり、これをいろいろな点から証明したいと思ったのが本研究の意図である。

## 2. 子供の進路に対する親(父母)の期待

日本は学歴社会であるかどうか。学歴の職業的地位の規定力を他の国と比べると、イギリスよりは学歴影響力は大きく、スウェーデンやアメリカと並んで0.53で、0.69のデンマークより低い<sup>(3)</sup>というが、親の職業的地位が子供のそれに世襲される度合が、日本は弱く、そのため学歴が社会的地位を決める力として相対的に大きな役割を演ずるようになってきているという。この点で日本はアメリカとともに世界有数の学歴社会であるらしい。たしかにこの百年の近代化の過程を通して、日本には職業選択の自由の法的保障の上に、親の職業をつぐことではなくて立身出世の教育体制が構築され、戦後の経済社会の変動 就中第一次産業人口の減少と第二次、第三次産業の増加、都市集中化は、ごくごく限られた医師のような場合を除けば、職業の世襲という慣行をほとんど崩壊させてしまった。

1960年ごろまでは、中学・高校の進路指導は親の希望を容れながらも、卒業後の職種、工場、働き先の都市の選択が子供の適性と能力を判断基準として行われていた。集団就職もかなり一般化していた。その時代と比べると今や様相は一変してきた。中卒就職者は「金の卵」どころか、稀有の存在となり、中学ではどの高校へゆくか、偏差値と業者統一テストによって「進路指導」が行われ、高校でも、学校群制や公立私立の格差が顕在化している今では、普通科では幾たびかの校内学力テストと校外模擬テストによって「進路」が格付けされ、国公立共通一次試験はその上層部のランキングを更にハム・スライス式に細分化することになっ

た。世襲などということはいわずもがな、今や、子供の進路について 親が「きめる」などということは殆んど不可能であり、コンピューターがはじき出す「偏差値」の許容範囲内において子供と一緒にあってどちらにするか、数通りの可能性を選び出し、その可能性の矢を運命の神の命ずるまゝに「願書」に託するだけであろう。

子供の進路についての親のかゝり方がその程度であるとすれば、教育についての親の期待などまことに説得力の乏しいものになってしまうであろうが、一方に子供の将来だけが親の生きがいであったり、教育投資の上昇率が年を追って増加しているのを見ると進路についての親の期待は昔と比べて決して低下しているとはいえないであろう。

本校PTA会長奥田孝美氏をはじめ、本年度の本校PTA役員の方々と、高校については進路と家庭教育のあり方について、中学については生徒の家庭での生活の実態と親の意識について、調査を企てられ、われわれの関心とも一致していたので、共同してまとめる機会をもつことになった。進路については奥田会長が附属連盟PTA研究協議会で発表されたものであるが、一応この紙面をかりてまとめておきたい。

(1) 進路について子供に対し意見や希望を言ったことがあるかどうか。1年生の親についてはまだそうした話はしていないが多分これからいだろうとする回答も含めると93%の父兄が子供に希望をもらしている。

|                   | 男子の親 | 女子の親 | 計   | %   |
|-------------------|------|------|-----|-----|
| ア 言ったことがある(言っている) | 114  | 159  | 273 | 784 |
| イ 多分これから言う(つもり)   | 25   | 25   | 50  | 144 |
| ウ ない(言ったことかない)    | 10   | 7    | 17  | 49  |
| エ 今後と言わないつもり      | 3    | 4    | 7   | 22  |

これは当然のことだろうと思う。この回答でア、ウと回答した人について「お子様がどんな進路を選んでほしいとお考えですか」をたずねてみた。

|           | 男子の親 | 女子の親 | 父親 | 母親  | 計   | %   |
|-----------|------|------|----|-----|-----|-----|
| ア. 大学への進学 | 149  | 133  | 74 | 208 | 282 | 827 |
| A. 国公立文系  | 55   | 61   | 37 | 79  | 116 | 340 |
| B. 私学文系   | 10   | 22   | 5  | 27  | 32  | 94  |
| C. 国公立理系  | 68   | 23   | 26 | 65  | 91  | 267 |
| D. 私学理系   | 9    | 1    | 2  | 8   | 10  | 29  |
| E. 芸術系学部  | 1    | 13   | 2  | 12  | 14  | 41  |
| F. 家政系    | 0    | 5    | 0  | 5   | 5   | 15  |
| G. その他    | 6    | 8    | 2  | 12  | 14  | 41  |
| イ 短大      | 1    | 45   | 5  | 41  | 46  | 135 |
| A. 公立     | 1    | 29   | 4  | 26  | 30  | 88  |
| B. 私立     | 0    | 16   | 1  | 15  | 16  | 47  |
| ウ. 専修学校   | 1    | 6    | 0  | 7   | 7   | 20  |
| エ. 高校から就職 | 1    | 5    | 3  | 3   | 6   | 18  |

就職は a 官公庁 6 b 私企業 0 c 自営 0 d 家事 0

本校は必ずしも進学中心校ではない。むしろ高校でも抽選による選抜を併用し、普通科として中位の高校の構成である。それでも普通科であれば就職よりは進学に中心がおかれるのは全体的にみてもそうだろう。

就職を中心とした進路意識については農業・商業・工業・水産の各課程をもつ高校にもアンケートを施行しようと考えながらまとめなかった。一応普通科として、そしてこの報告分は附属高校の父兄の実態把握の資料である。

(2) 上掲のような進路希望をしている理由は何か。

|                | 男子の親 | 女子の親 | 計   | %   |
|----------------|------|------|-----|-----|
| ア 子供の能力及び性質から  | 69   | 79   | 148 | 274 |
| イ 子供の希望を考慮に入れて | 103  | 108  | 211 | 390 |
| ウ 親の(一方的)期待    | 27   | 41   | 68  | 126 |
| エ 第三者のすすめ      | 2    | 3    | 5   | 09  |
| オ 家庭の事情        | 7    | 13   | 20  | 37  |
| カ 経済上の理由       | 45   | 38   | 83  | 153 |
| キ その他          | 0    | 6    | 6   | 11  |

その他の主な内容

- ・生きがいのある人生を送るため
- ・自活できるため

先述した戦後日本的な進路決定の条件の中で、「子供の能力」と「希望をいれて」とを合計すると66.4%になり、「家庭の事情」と「経済上の理由」の合計19%をはるかに凌駕する。そして、もし子供と進路についての意見が異なるときは、どうするのだろうか。

|                 | 男子の親 | 女子の親 | 計   | %   |
|-----------------|------|------|-----|-----|
| ア 親子で話しあう       | 54   | 84   | 138 | 395 |
| イ 子供の希望を優先してきめる | 59   | 61   | 120 | 344 |
| ウ 先生を交えて三者で話しあう | 42   | 44   | 86  | 246 |
| エ その他           | 3    | 2    | 5   | 14  |

ア、イの合計が73.9%をしめるが、この点については本校の進路指導が本人の意向を重視している故であり、他の高校ではウ、又は先生の指導がかなりの%をしめるであろうとの予測はもっている。

(3) 進路指導に対する親の心構えとしては、どんなことが最も大切でしょうか。日ごろ感じておられること、希望など、思ったままを書いて下さい。というこれは自由記述してもらったものであるが、まとめてみると。○進路指導における親の基本的姿勢を述べた親は3つに分類できる。

第1は子供を全面的に信頼し、自らの人生設計に基づいて、主体的判断によって進路を決めさせる姿勢である。親のあり方としては、あくまで助言者・協力者としての立場で、子供の生活を見守る。具体的には求められれば自らの経験、社会・人生全般に関

わる公正・適確な判断見識を示し、精神的安定のための環境づくりに留意する。

第2は進路に関する知見・その基礎となる人生観・社会観などについての意見を交流できる環境を平素から作り、十分な話しあいをして結論を出す姿勢である。

第1の姿勢に比べると進路決定への関わり方が積極的であるが、基本的に、子供が安易な妥協や非現実的な選択をしないように、子供の能力・適性の適確な判断によって指導しようとするものである。

第3は親の経験・見識・信条を基礎に子供の能力・適性・家庭の事情などを考慮して、強力に指導しようとする姿勢である。

- 意見分布を見ると、第1は全体の約3分の2、第2は約4分の1、第3は残りでも最少なく、子供の意見を尊重する親の多いことを示している。
- 学校の行う進路指導に期待する。このため進路指導開始の時期を早め個人的なきめ細かな指導を希望する。また学校との連絡を緊密にする。
- 家庭の環境づくりに心掛ける。規律の中にゆとりある生活を持たせ、家族全員の心身の健康を図る。
  - ・能力・適性に応じた進路を選択させ、無理をさせない。(高学年)
  - ・まだ親あるいは子供の進路に対する意識が低い。(低学年)
  - ・受験勉強に奮起を促す。(全学年)
  - ・人生の意義を明らかにし、その具現のための第一歩として進路を考える。

(4) 父母は何のために子供を大学に進学させようとしているのか。2つを選択肢中から選んでもらった結果は次の通りである。

|                             | 男子親 | 女子親 | 計   | %    |
|-----------------------------|-----|-----|-----|------|
| ア 職業人としての専門の知識技能を習得させる。     | 72  | 86  | 158 | 24.0 |
| イ 広い知識を習得し、人間形成の面で一そう修行させる。 | 113 | 132 | 245 | 37.2 |
| ウ 社会人として大学卒は絶対的必要条件だと思う。    | 24  | 12  | 36  | 5.5  |
| エ 将来の生活および社会的地位の保証が得られるから。  | 20  | 13  | 33  | 5.0  |
| オ 本人の希望にそって。                | 69  | 108 | 177 | 26.9 |
| カ その他                       | 5   | 2   | 7   | 1.0  |

その他の主な内容

・子供の夢をかなえさせる。 ・向学心を活かす。  
 「広い知識の習得と人間形成」が37.2%をしめるのは、たて前としてそうだとしたことなのか。自分の子について本当にそう感ずるのか。予想外に「社会人としての必要条件」「社会的地位の保証」が少なかったことと対照的である。本音が出てないとしたらアンケート調査として失格であるが、一昔前とくらべると、大学卒は絶対必要条件でも、社会的地位の保証書でもなく

なっているかもしれない。父母の学歴観については別のアンケート結果にもとづいて後述する。

(5) 家庭教育について

学校に対して家庭がどのようなかゝり方(どのように心がけておられますか)をすべきか質問した結果。

|                          | 男子親 | 女子親 | 計   | %    |
|--------------------------|-----|-----|-----|------|
| ア 学校と協力してしつけ道徳などに力を入れる。  | 43  | 64  | 107 | 29.9 |
| イ 子供の教育には家庭は全く関係しない方がよい。 | 13  | 1   | 14  | 3.9  |
| ウ 教育は学校任せで、家庭内のことは責任をもつ。 | 71  | 86  | 157 | 43.9 |
| エ 子供の教育を考える余裕はほとんどない。    | 2   | 0   | 2   | 0.6  |
| オ 自分の考えを子供におしつけたくない。     | 7   | 10  | 17  | 4.7  |
| カ 子供の人格形成の場はやはり家庭だと思う。   | 25  | 32  | 57  | 15.9 |
| キ その他                    | 3   | 1   | 4   | 1.1  |

その他の主な内容

・自主性、自主精神を持たせるように。  
 「学校任せ」又は「家庭は関係しない方が」というのは学校としてかなりやりやすい(47.8%)というふうにもみることができ、同時に「人格形成の場は家庭」(15.9%)という回答も学校としては心強い。

家庭教育について考えるとき、現在どのような点が最大の問題だと考えられますか という問に対して、

|                      | 父親 | 母親  | 計   | %    |
|----------------------|----|-----|-----|------|
| 親の期待が大きすぎて、親だけから立つ   | 13 | 36  | 49  | 14.8 |
| 親と子の価値観が違い話が通じない     | 41 | 124 | 165 | 49.8 |
| 成績のことがついでに出て子から敬遠される | 8  | 22  | 30  | 9.1  |
| 親に確固とした考えなく強い教育できない  | 6  | 28  | 34  | 10.3 |
| その他                  | 16 | 37  | 53  | 16.0 |

その他の主な内容

・とくに問題はない。 ・子供を信頼している。  
 ・自分の道を歩け。  
 ・十分な話しあいを持っている。  
 ・生活に節度がない。 しつけが大切。  
 ・意志が通じない。  
 ・親の姿勢が大事。 率先垂範せよ。  
 ・望ましい人間関係(参画意識をもつ、人生の目標を明確に。尊敬を受ける。自立できる。など)  
 親と子で話が通じないという回答数が50%近いのも気になるが、そのなかみは特に母親から出されていることを重視すべきだろう。一昔ほどには親子の断絶は表面に出なくなったこのごろである。そして高校教師は問題が起るたびに「近ごろの母親は子供と同じ次元に立ってしか物を考えない」とか「子供をかばうことしか考えないのではないか」と推測する。しかしその母親にして(父親は全体の回答も少ないし、又子供と顔を合せるのも少ないであろう)価値観が違って全く話が通じないとすると、一体どうしたらよいのだ

ろうか。「成績のことがつい口に出て」というのが母親に多いのではないかという予想はくずれてしまった。

### 3. 教育課程・教育内容についての父母の期待

中学校では新指導要領による教育課程が発出し、高校でも来年度から新しくなる。その新しい高校の教育の変り方に対して、高校生の父母はどのような期待をもち、どのように学校に希望しているのでしょうか。5年前にもほぼ同じような発想でアンケート調査を試みたこともあるが(その同じアンケート項目によって今回施行した調査結果については後でまとめた)今回は父母の年代によるうけとめ方の違いがあるかもしれないという前提に立って、父母による別、年令別、そして学歴別の3点によって集計をわけてみた。学歴別に考えたのは、特に学歴社会とよばれる日本の教育社会を父母がどのようにうけとり、高校に子供を進学させている父母が、大学への進学乃至は就職という現実をどのように把んでおられるのか、特に自分の学歴とひきくらべての判断を集約したかったのであるが、<中卒><高卒・旧中卒><大学卒・旧高専卒>という3区分ではそれほどはっきりした回答の差異を見いだすことはできなかった。環境調査表の中にも父母の学歴を記入させない現状の中で、これ以上に細分化した学歴区分を質ねるのはやゝ問題だという面も。

(1) 高校進学率の現状(94.0%)をどのように評価するか。

- ア. いっそ義務化して100%にしたらい。
- イ. 現状ぐらいがちょうどいい線だろうと思う。
- ウ. 急激に上昇しすぎたのではないか。少し抑えた方がよい。
- エ. まったく多すぎる。本当に勉強したい者だけに制限した方がよい。

|   | 30代 | 40~44 | 45~49 | 50~54 | 55以上 | 父親 | 母親 | 父親 | 母親 | 合計 |    |    |    |    |     |
|---|-----|-------|-------|-------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|   | 父   | 母     | 父     | 母     | 父    | 計  | 計  | %  | %  |    |    |    |    |    |     |
| ア | 0   | 5     | 22    | 38    | 22   | 28 | 7  | 4  | 2  | 0  | 53 | 75 | 44 | 39 | 128 |
| イ | 1   | 5     | 7     | 21    | 16   | 16 | 7  | 1  | 0  | 0  | 31 | 43 | 26 | 28 | 74  |
| ウ | 0   | 5     | 2     | 8     | 4    | 1  | 4  | 4  | 0  | 0  | 10 | 18 | 8  | 9  | 28  |
| エ | 0   | 4     | 8     | 23    | 12   | 22 | 3  | 6  | 4  | 0  | 27 | 55 | 22 | 29 | 82  |

全体としては、現状肯定(27%)を中心として高校義務化の47%と、多すぎとみるウエ(26%)とが両極分解する(だから問題をかゝえながらも現状で頭打ちになっているのだろう)が、父母ともに45才以上になると多すぎるとみる回答が半数をこえ、44才以下ではその逆である。今後の可能性をある程度予測できる数字である。

(2) 教育課程について、今後どのように変えられることを期待しているか。選択肢を次の4つにおいてアン

ケートをとって見た。

- ア. 高校までは全員同じ内容のことを学ぶのが当然で、進路先や男女別にコースや内容をわけないでほしい。
- イ. 学校間の格差をなくしたうえで、高校の中で能力や適性・希望などによるコースを設けてほしい。
- ウ. 多様化している生徒の能力適性に応じて特色ある高校を多くつくって、学校を自由に選択させてほしい。
- エ. 美容や調理などの各種学校の内容も高校にとり入れ、沢山コースをわけて、実社会で役に立つようにしてほしい。

|   | 30代 | 40~44 | 45~49 | 50~54 | 55以上 | 父親 | 母親 | 父親 | 母親 | 合計 |    |    |    |    |     |
|---|-----|-------|-------|-------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|   | 父   | 母     | 父     | 母     | 父    | 計  | 計  | %  | %  |    |    |    |    |    |     |
| ア | 0   | 3     | 3     | 5     | 8    | 7  | 1  | 0  | 0  | 0  | 12 | 15 | 10 | 8  | 27  |
| イ | 0   | 9     | 18    | 42    | 20   | 26 | 9  | 5  | 2  | 0  | 49 | 82 | 39 | 43 | 181 |
| ウ | 1   | 7     | 16    | 35    | 27   | 32 | 10 | 9  | 2  | 0  | 56 | 83 | 45 | 44 | 139 |
| エ | 0   | 0     | 1     | 9     | 4    | 1  | 1  | 0  | 2  | 0  | 8  | 10 | 6  | 5  | 18  |

高校全員共通内容で、というア と、各種学校的内容の包括というエ とは必ずしも現実策とはうけとられず(父母そしてア・エともそれぞれ10%以下)問題は、学校の中でコース別をとるか、学校を多様に分けるかの二つで、結果はほぼ48%前後、ただし、その内容を検討すると、やはり45才に線がひかれて、44才以下の親はコース別に傾き、45才以上の父母は、学校間で内容をわけるという方向に傾斜する。学校の中でかそれとも学校の間でかどちらで区割・選別の線をひくかということである。

(3) 現在の高校教育に最もよく希望する方向。

次のうちではどれか。

- ア. もっと教科内容のレベルを高くして、希望の大学に進学できるよう最大限の努力をしてほしい。
- イ. 折角希望の高校に入れたのだから、落ちこぼれをつくらぬ様、教える内容を全体的にやさしくしてほしい。
- ウ. もっと選択科目を多くして、2年生からでも好きな科目をとって、自由で個性を伸ばすようにしてほしい。
- エ. その他( )

|   | 30代 | 40~44 | 45~49 | 50~54 | 55以上 | 父親 | 母親 | 父親 | 母親 | 合計 |    |    |    |    |     |
|---|-----|-------|-------|-------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|   | 父   | 母     | 父     | 母     | 父    | 計  | 計  | %  | %  |    |    |    |    |    |     |
| ア | 0   | 7     | 15    | 30    | 17   | 21 | 7  | 8  | 0  | 0  | 39 | 66 | 31 | 35 | 105 |
| イ | 0   | 3     | 4     | 18    | 8    | 10 | 1  | 1  | 1  | 0  | 14 | 32 | 11 | 17 | 46  |
| ウ | 1   | 9     | 16    | 37    | 31   | 35 | 12 | 6  | 4  | 0  | 66 | 87 | 52 | 46 | 153 |
| エ | 0   | 0     | 2     | 4     | 3    | 1  | 1  | 0  | 0  | 0  | 7  | 5  | 6  | 3  | 12  |

ほぼ48%が選択を多く、個性を伸ばすようにと答えているのは現実的対応で、新しい教育課程も多分にその方向をめざしているといつてよい。

(4) 何のために子供を大学に進学させるか。

2の(4)と同じ趣旨のアンケートであり、こちらは選択肢を多くしてその中から1つ選んだ形である。結果は次の通りである。

- ア. 大学さえ出れば何にでもなれるし、何かにつけて有利だから。
- イ. 大学を出れば少しでもよい社会的地位や職業につけると思うから。
- ウ. 実利的な点はともかくとして、人間としての教養を身につけてほしいから。
- エ. 実社会に出てから役立つよう、専門的知識や技能を身につけてほしいから。
- オ. 子供が勉強が好きな様だし、希望をかなえてやりたい。
- カ. これからは大学出が普通になるし、大学だけは出しておかないと肩身が狭いから。
- キ. 何となく。 ク. その他( )
- ケ. 進学は考えていない。

|   | 30代父 | 40~44父 | 45~49父 | 50~54父 | 55以上父 | 父親計 | 母親計 | 父親% | 母親% | 合計 |    |    |    |    |     |
|---|------|--------|--------|--------|-------|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|-----|
| ア | 0    | 0      | 1      | 1      | 0     | 0   | 0   | 2   | 1   | 2  | 1  | 3  |    |    |     |
| イ | 0    | 1      | 5      | 7      | 8     | 3   | 0   | 1   | 0   | 0  | 8  | 12 | 6  | 7  | 20  |
| ウ | 0    | 6      | 14     | 37     | 26    | 24  | 10  | 7   | 2   | 0  | 52 | 64 | 42 | 36 | 116 |
| エ | 1    | 10     | 14     | 40     | 25    | 34  | 10  | 5   | 2   | 0  | 52 | 89 | 42 | 50 | 141 |
| オ | 0    | 2      | 3      | 1      | 2     | 2   | 1   | 0   | 2   | 0  | 8  | 5  | 6  | 8  | 18  |
| カ | 0    | 0      | 0      | 0      | 1     | 2   | 0   | 0   | 0   | 0  | 1  | 2  | 1  | 1  | 3   |
| キ | 0    | 0      | 1      | 0      | 0     | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 1  | 0  | 1  | 0  | 0   |

大学さえ出れば(ア)と、少しでもよい社会的地位(イ)そして、これからは大学出が普通(ウ)というのは同じ方向の現状認識を問うもので、その構えのちがいをたしかめたかったのであるが、何れもごく少数であり、特に45才以上の反応は微々たるものである。

2の(4)の結果でも、社会的必要条件・社会的地位をあわせて1割程度であり、旧制学歴世代(50才以上)にはあるいはこうした意識が色濃く残っているのではなからうかという憶測は両方のアンケートとも出てこなかった。「教養」と「専門的知識」がそれぞれ40~50%をしめるのも前回アンケート結果と同じであるが「教養」+「専門」志向が父親はほぼ同率なのに対して、母親では「専門技能」志向が第1位、50%をしめたのは一考すべき素材かもしれない。

#### 4. 高校生の「教育の内容および実態」についての意識

父兄に対して行った「教育課程・教育内容」についての調査と併行して、ほぼ同じアンケート項目を包括しながら、昨年度の高校1・2年生および今年度の新入生にもアンケート調査を行った。それは父母の教育要求ないし教育意識に対して、当の高校生がどのように考えているか。比較したかったからであるが、今一

つ、高校での主たる教科内容についてどのようなものとして把握、又どのように改めてもらいたいと考えているか、おさえたかったからである。

#### (1) 高校というものはどのようなものと考えて入学したか。(以下、学年別は男女別の%による)

|                          | 新入生<br>男 女 | 1年<br>男 女 | 2年<br>男 女 | 男計 | 女計 | 全体% |    |    |    |
|--------------------------|------------|-----------|-----------|----|----|-----|----|----|----|
| ア. 中学より程度の高い勉強をするつもりで。   | 10         | 9         | 6         | 8  | 9  | 6   | 25 | 23 | 24 |
| イ. 大学に進学するための準備と考えて。     | 15         | 8         | 14        | 11 | 11 | 10  | 40 | 30 | 34 |
| ウ. 部活動などの自由な活動ができると期待して。 | 3          | 5         | 4         | 6  | 3  | 5   | 11 | 16 | 14 |
| エ. みんなが進学するので自分も。        | 3          | 4         | 5         | 6  | 1  | 5   | 9  | 15 | 12 |
| オ. 何も考えなかった。             | 5          | 6         | 4         | 6  | 6  | 6   | 15 | 17 | 16 |

#### (2) 高校進学率についての認識。

父母に対して行ったアンケート項目と同一である。

|                         | 新入生<br>男 女 | 1年<br>男 女 | 2年<br>男 女 | 男計 | 女計 | 全体% |    |    |    |
|-------------------------|------------|-----------|-----------|----|----|-----|----|----|----|
| ア. 本当に全員が高校に進学できる義務教育に。 | 9          | 7         | 2         | 8  | 5  | 4   | 16 | 19 | 18 |
| イ. 今の程度でよいと思う。          | 13         | 10        | 11        | 11 | 9  | 8   | 33 | 29 | 31 |
| ウ. 本当に勉強したい人だけ進学すればよい。  | 16         | 15        | 19        | 17 | 16 | 19  | 51 | 51 | 51 |

父母の結果が両極分解であったのに対して、当の高校生諸君は、多数(51%)が本当に勉強したい人だけ来ればよい(自分がその中に入るかどうかは別問題)と回答し、全入派は18%、男子にいたっては16%にすぎない。不本意就学者 involuntary attendant が増加しつつあることは予測できる。

#### (3) 高校での学習のしかたやその程度について。

|                               | 新入生<br>男 女 | 1年<br>男 女 | 2年<br>男 女 | 男計 | 女計 | 全体% |    |    |    |
|-------------------------------|------------|-----------|-----------|----|----|-----|----|----|----|
| ア. 進路先や男女別にコースや内容をわけない。       | 3          | 2         | 4         | 5  | 3  | 1   | 10 | 8  | 9  |
| イ. 学校差をなくし、能力や適性や望によるコースを設ける。 | 9          | 5         | 7         | 7  | 6  | 5   | 22 | 16 | 19 |
| ウ. 進路や適性に合わせ、特色のある高校を多くつくる。   | 24         | 23        | 20        | 21 | 19 | 20  | 62 | 64 | 63 |
| エ. 各種学校の内容も含め、多様化したコースを設ける。   | 2          | 2         | 2         | 4  | 1  | 6   | 5  | 13 | 9  |

これも父母に行ったのと同じ内容であるが、女子で美容や調理も含めた多様化にやゝ食指を動かしている程度でア. エを消去すれば、父母ときわ立った対象を示すのは、「適性に合わせた高校を多く自由に選べるように」という項目が多い(63%)ということである。「学校間格差をなくし」「コース別」に父母が関心を多くもっているのと対照的である。「好きな高校を選べる」という点にアピールしたのかもしれない。(4) 高校での学習で最もよく希望する方向。は父母の示した結果とほぼ一致する。より現実的かもしれない。

父母の教育に対する期待と高校生の意識

|  | 新入生 |    | 1年 |    | 2年 |    | 男計 | 女計 | 全体% |
|--|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|  | 男   | 女  | 男  | 女  | 男  | 女  |    |    |     |
| ア もっと内容のレベルを高くし、希望の大学に進学できるように折角希望の高校へ入ったから、ついてゆけない人をなくするよう教え方をやさしく。 | 6   | 3  | 6  | 6  | 3  | 6  | 15 | 16 | 15  |
| イ 選択を多くし、好きな科目さえ履習して卒業できる。   | 15  | 15 | 7  | 10 | 3  | 2  | 25 | 28 | 27  |
| ウ その他  | 15  | 13 | 20 | 19 | 20 | 23 | 55 | 53 | 54  |
| エ その他  | 2   | 0  | 0  | 2  | 2  | 1  | 5  | 4  | 4   |

(5) 何のために大学に進学するのか。

「大学さえ出ておけば」派と「少しでもよい社会的地位」派は父母の場合と比べるとかなり多いが、それでも10%程度である。「実社会に出てから役立つ専門的知識」を求めて大学を選ぶのは、極めて現実的で、かつ健全な志向表明であろう(ほぼ1/3)

「教養」派は父母のアンケートより後退するが、その分「自分が好きで勉強したい学問」が大学の中にあるという期待が20%はある、これも健全な志向である。

|                          | 新入生 |   | 1年 |    | 2年 |   | 男計 | 女計 | 全体% |
|--------------------------|-----|---|----|----|----|---|----|----|-----|
|                          | 男   | 女 | 男  | 女  | 男  | 女 |    |    |     |
| ア 大学さえ出ておけば何かにつけて有利。     | 3   | 2 | 1  | 3  | 2  | 2 | 7  | 7  | 7   |
| イ 大学を出れば少しでもよい地位や職業につける。 | 7   | 3 | 3  | 2  | 2  | 2 | 13 | 7  | 10  |
| ウ 人間としての教養を身につけたい。       | 5   | 6 | 7  | 8  | 4  | 6 | 17 | 20 | 18  |
| エ 実社会に出て役立つ知識・技能を身につける。  | 11  | 8 | 11 | 11 | 10 | 9 | 28 | 28 | 28  |
| オ 自分が好きで勉強したい学問があるので是非。  | 7   | 7 | 6  | 6  | 7  | 7 | 21 | 20 | 20  |
| カ 誰でも行く時代だから、大学だけは出たい。   | 3   | 2 | 2  | 1  | 1  | 0 | 6  | 4  | 5   |
| キ 何となく。                  | 0   | 1 | 1  | 1  | 0  | 1 | 1  | 3  | 2   |
| ク その他。                   | 1   | 0 | 1  | 0  | 3  | 1 | 5  | 2  | 3   |
| ケ 進学希望なし。                | 0   | 2 | 2  | 3  | 1  | 4 | 3  | 9  | 7   |

(6) 進学しない人にとって現在の高校の内容をどのように改めたらよいか。(全員にアンケートした)

|                                   | 新入生 |    | 1年 |    | 2年 |   | 男計 | 女計 | 全体% |
|-----------------------------------|-----|----|----|----|----|---|----|----|-----|
|                                   | 男   | 女  | 男  | 女  | 男  | 女 |    |    |     |
| ア 英語や数学をうけなくても高校を卒業できる。           | 2   | 1  | 1  | 1  | 1  | 3 | 4  | 6  | 5   |
| イ 部活動やクラブ活動の時間を十分に確保し、活発に。        | 8   | 7  | 4  | 6  | 9  | 1 | 21 | 13 | 17  |
| ウ 実社会で役に立つ科目を特設してほしい。             | 7   | 5  | 6  | 10 | 3  | 7 | 17 | 22 | 20  |
| エ 授業時間を少なくして、今の3分の2位に。            | 3   | 1  | 5  | 2  | 3  | 4 | 8  | 7  | 8   |
| オ 就職希望者だけによる別のクラス編成を              | 4   | 2  | 4  | 3  | 3  | 5 | 11 | 11 | 11  |
| カ 体育や一般教養にあたる社会・芸術などの科目を必修で多くとれる。 | 1   | 4  | 3  | 2  | 2  | 5 | 7  | 12 | 10  |
| キ どの科目も受験本位でなく、一般向きに。             | 12  | 11 | 11 | 12 | 7  | 7 | 32 | 29 | 30  |

やはり現在の教科を受験本位でなく、か30%近くを占め、次いで多いのは女子で美容・洋裁など 男子では、部活動。普通科のコースというものは受験という目標を欠くとかなり曖昧なものとなる。そして現在も普通科で進学しない生徒は、やゝもすればアウトサイダーにおこまれる。何とかしなければならない問題の一つである。

(7) 現在の高校の各教科の内容をどのような点で変え

てもらいたいと思っているか。

①国語(学年については男・女別による%)

|                | 新入生 |    | 1年 |    | 2年 |    | 男計 | 女計 | 全体% |
|----------------|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|                | 男   | 女  | 男  | 女  | 男  | 女  |    |    |     |
| ア 一般にもっと程度を高く。 | 0   | 0  | 3  | 1  | 3  | 3  | 6  | 5  | 5   |
| イ 実際に役立つように。   | 19  | 16 | 16 | 21 | 16 | 15 | 51 | 51 | 51  |
| ウ 古典の内容を中心に。   | 0   | 1  | 1  | 1  | 2  | 2  | 2  | 5  | 4   |
| エ 話し方や作文を重視して。 | 6   | 4  | 9  | 7  | 4  | 5  | 19 | 16 | 17  |
| オ 一般にもっとやさしく。  | 10  | 10 | 4  | 5  | 2  | 2  | 16 | 17 | 17  |
| カ その他          | 2   | 0  | 2  | 2  | 2  | 3  | 6  | 6  | 6   |

②社会

|                    | 新入生 |    | 1年 |    | 2年 |    | 男計 | 女計 | 全体% |
|--------------------|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|                    | 男   | 女  | 男  | 女  | 男  | 女  |    |    |     |
| ア 一般にもっと程度を高く。     | 1   | 0  | 2  | 0  | 2  | 2  | 4  | 3  | 3   |
| イ 実際に役立つ法律や知識を中心に。 | 13  | 9  | 7  | 10 | 5  | 8  | 26 | 27 | 26  |
| ウ 歴史地理を中心に。        | 2   | 1  | 1  | 1  | 2  | 2  | 5  | 4  | 5   |
| エ 社会的常識や経済知識を。     | 10  | 14 | 18 | 17 | 14 | 11 | 42 | 42 | 42  |
| オ 一般にもっとやさしく。      | 7   | 8  | 6  | 6  | 5  | 5  | 18 | 19 | 18  |
| カ その他              | 3   | 0  | 0  | 2  | 3  | 2  | 6  | 5  | 6   |

③数学

|                    | 新入生 |    | 1年 |    | 2年 |    | 男計 | 女計 | 全体% |
|--------------------|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|                    | 男   | 女  | 男  | 女  | 男  | 女  |    |    |     |
| ア 一般にもっと程度の高いことを。  | 1   | 1  | 1  | 1  | 3  | 0  | 5  | 3  | 4   |
| イ 計算器の使い方や役に立つことを。 | 6   | 3  | 9  | 7  | 4  | 4  | 18 | 14 | 16  |
| ウ 進路別に内容をかえて。      | 13  | 13 | 13 | 12 | 16 | 18 | 42 | 43 | 42  |
| エ 一般にもっとやさしく。      | 14  | 15 | 8  | 14 | 4  | 9  | 26 | 38 | 32  |
| オ その他              | 2   | 0  | 2  | 2  | 2  | 0  | 7  | 3  | 5   |

④理科

|                             | 新入生 |    | 1年 |    | 2年 |    | 男計 | 女計 | 全体% |
|-----------------------------|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|                             | 男   | 女  | 男  | 女  | 男  | 女  |    |    |     |
| ア 全体として現代科学の進歩に応じた程度の高いことを。 | 4   | 1  | 3  | 2  | 5  | 1  | 11 | 4  | 7   |
| イ 理科系に進む者だけに高度の内容を。         | 8   | 7  | 5  | 5  | 6  | 9  | 19 | 21 | 20  |
| ウ 本当に将来役立つ基本的な内容をしっかり。      | 12  | 13 | 18 | 15 | 11 | 10 | 40 | 38 | 39  |
| エ 常識として必要な科学の内容をやさしく。       | 12  | 11 | 8  | 14 | 6  | 12 | 25 | 37 | 32  |
| オ その他                       | 2   | 0  | 0  | 1  | 2  | 0  | 4  | 1  | 2   |

⑤英語

|                   | 新入生 |    | 1年 |    | 2年 |    | 男計 | 女計 | 全体% |
|-------------------|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|                   | 男   | 女  | 男  | 女  | 男  | 女  |    |    |     |
| ア 一般にもっと程度の高いことを。 | 1   | 0  | 1  | 1  | 2  | 1  | 3  | 2  | 3   |
| イ 英会話や実用英語を中心に。   | 19  | 20 | 22 | 29 | 17 | 20 | 58 | 69 | 64  |
| ウ 文法や英作文に重点を置いて。  | 2   | 1  | 1  | 1  | 3  | 1  | 6  | 4  | 5   |
| エ 進路別に内容をかえて。     | 3   | 3  | 3  | 1  | 4  | 5  | 10 | 10 | 10  |
| オ 一般にもっとやさしく。     | 10  | 7  | 3  | 3  | 2  | 3  | 16 | 14 | 15  |
| カ その他             | 3   | 0  | 2  | 1  | 1  | 0  | 6  | 1  | 3   |

### 5. 学歴についての父母と高校生のうけとめ方

#### (1) 高校卒という学歴のもつ意味について

- ア. 少なくとも中学卒よりは意味があると思う。高校を出ていなければ社会に出てかなり不利だと思う。
- イ. 高校のなかでも格差が大きいから、高卒という学歴をみてくれる場合も無視される場合もある。
- ウ. ほとんど高校へ来ているから、中学校卒と同じ程度の意味しか持っていないと思う。

|   | 30代 | 40~44 | 45~49 | 50~54 | 55以上 | 父親 | 母親 | 父親 | 母親 | 合計 | 合計 |    |    |    |     |    |
|---|-----|-------|-------|-------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|
|   | 父   | 母     | 父     | 母     | 父    | 計  | 計  | %  | %  |    | %  |    |    |    |     |    |
| ア | 0   | 8     | 13    | 30    | 27   | 23 | 8  | 5  | 4  | 0  | 52 | 66 | 43 | 35 | 118 | 38 |
| イ | 0   | 8     | 18    | 45    | 17   | 27 | 9  | 7  | 0  | 0  | 44 | 87 | 36 | 46 | 131 | 42 |
| ウ | 0   | 8     | 6     | 15    | 13   | 15 | 3  | 3  | 2  | 0  | 24 | 36 | 20 | 19 | 60  | 19 |

|   | 新入生 |    | 1年 |    | 2年 |    | 男  | 女  | 全体 |
|---|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
|   | 男   | 女  | 男  | 女  | 男  | 女  |    |    |    |
| ア | 16  | 16 | 13 | 17 | 10 | 13 | 39 | 47 | 43 |
| イ | 11  | 8  | 11 | 12 | 5  | 10 | 27 | 31 | 29 |
| ウ | 13  | 8  | 8  | 7  | 14 | 8  | 34 | 22 | 28 |

高校卒という学歴に対し、父母は実社会における今までの経験から高校を卒業していなければいけないと考えるが、その反面、数多くの大学卒業者が今日においては実社会に導入され、父母が高校を卒業した時代における高校卒と今日の大学卒とが同じようなウェイトで考えられていることがわかる。しかし、父親と母親との間には、実際の体験の度合が異なるためか、高校卒の意味が相反する面もうかがわれる。

一方、子供においては、未経験のために、自分の環境や社会情報の部分的な面だけにより高校卒という学歴はそれなりに意味があると考えている。

男女別では、親と子との間において、正反対の向きがみられるが、これも男女それぞれの経験の違いではないだろうか。

#### (2) 現在の社会における学歴社会の方向について

- ア. 現在の世の中はまさしく学歴社会で、この傾向は以前からみても少しも変っていない。
- イ. 学歴の高い人に実力もある場合が多く、学歴万能という現象は弱まるにしてもなくなるとは考えられない。
- ウ. 学歴の高い人が必ずしも実力があるとはいえないが、今の社会はまだ学歴がものをいう現状だと思う。
- エ. 大学を出ても大半はブルー・カラーで、ごく一部を除けば学歴よりも実力本位の社会になりかけている。

|   | 30代 | 40~44 | 45~49 | 50~54 | 55以上 | 父親 | 母親 | 父親 | 母親 | 合計 | 合計 |     |    |    |     |    |
|---|-----|-------|-------|-------|------|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|-----|----|
|   | 父   | 母     | 父     | 母     | 父    | 母  | 父  | 母  | %  | %  |    | %   |    |    |     |    |
| ア | 0   | 0     | 2     | 6     | 7    | 2  | 3  | 0  | 0  | 0  | 12 | 8   | 10 | 4  | 20  | 6  |
| イ | 0   | 3     | 5     | 7     | 8    | 8  | 3  | 1  | 1  | 0  | 18 | 19  | 14 | 10 | 37  | 12 |
| ウ | 0   | 14    | 26    | 61    | 34   | 50 | 14 | 11 | 4  | 0  | 73 | 136 | 62 | 71 | 214 | 68 |
| エ | 0   | 2     | 6     | 16    | 10   | 7  | 1  | 3  | 1  | 0  | 18 | 28  | 14 | 15 | 46  | 15 |

|   | 新入生 |    | 1年 |    | 2年 |    | 男  | 女  | 全体 |
|---|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
|   | 男   | 女  | 男  | 女  | 男  | 女  |    |    |    |
| ア | 4   | 2  | 4  | 3  | 3  | 1  | 11 | 6  | 8  |
| イ | 2   | 2  | 5  | 2  | 4  | 3  | 11 | 8  | 9  |
| ウ | 25  | 23 | 20 | 24 | 21 | 24 | 66 | 70 | 68 |
| エ | 5   | 5  | 5  | 7  | 2  | 4  | 12 | 16 | 14 |

前に述べたように、実際に大学卒業してもそれなりの実力を持ち合わせた者が少ないか、または、その実力を発揮できる場所が少なくなっているために少しずつ実力社会へ向きつつあることがうかがわれる。

このアンケートでは項目別の一つ一つ検討を加える形の処理をしてきたが、それぞれの項目について選んだ回答が、たがいに矛盾し合う場合もあることが目についた。例えば、高校を義務化する志向と、高校の教育課程を進路・適性によるコース別にしたりせず3年間同じものにしたいたする志向とは、理念はともかく現実ではかなりの困難を伴うのではないかとと思われる。そしてさらに現在の高校教育に最もつよく希望する方向が、教科の内容レベルを高くして大学進学に備えるようにということであれば、理念上の矛盾もつけ加わって、その志向するところは支離滅裂ということになる。しかしそのような組合せで回答している例が父兄の場合には8名を数える。ほんの一例に過ぎないが、同一の志向を持つひとびとが各項目に同じ回答を選んでいるとは限らず、また同じ回答を選んでいるひとびとが同じ理念の持主とは限らないのである。ほんとうの志向は項目ごとの回答の組合せによって分類すべきであろう。

とはいえ、親と生徒との考えかたにかなり大きな差がみられるのは、高校はどうあるべきか、何をどう教え、何をみざすべきかという根本的なことに関してであるように思われる。高校の全入ひいては義務化への志向は生徒自身よりも親のほうがはるかにつよい。高校の多様化を望む意向は親・生徒ともにつよいが、それを実現する方法が、学校間格差解消プラス学校内コース多様化という方法でと、学校そのものの種類の多様化という方法でとに二分された形となっているのは親のほうであり、生徒のほうは後者すなわち学校種類多様化を望むほうが圧倒的多数である。これが本校だけの特殊現象なのか、現在の高校生一般に通じるもの

なのか、一概には決められないが、この考えかたは、親の場合はむしろ年輩者層のほうに多くみられたものであるだけにまことに興味深いことと思われるのである。さらに、現在の高校に望むことがらに、大学進学を旨としたレベルアップを挙げるのは生徒よりも親のほうをはるかに多く、生徒は概して、むしろレベルの引下げを、そして何よりもコースの多様化を望む声が断然多いのである。

総じていえば、高校全入さらには義務化といった考えかたと、大学進学に直結した授業内容をという、二兎を追うような要求には、親のほうの功利的打算が強く働いているのではないかと。そして生徒のほうの、むしろ義務化に反対し、かつ学校種別や学校内コースの多様化を求める志向は、目下日常いや応なしに直面している学校生活の中からにじみ出た意識の反映ではないだろうか。学校のありかたが生徒の意向だけで左右されることがあってはならないのはいうまでもないことだが、少なくとも高校教育のありかた、内容、見通しに関する限り、生徒の実感的意識のほうが、親の観念的もしくは功利的意識より当たっていることが多いのではないかとと思われる。そして親の矛盾を含んだ要求

——学校と社会に対する要求はそのまま自分の子に対しても向けられるであろう——に対して、子が反ばつするケースも、案外こんなところに起因しているのではないかと思えるのである。

## 6. 付記

以上やゝ粗雑なまとめ方であり、当然一般(公私立)の高校にも調査のワクをひろげる予定で始めたのであるが、原稿締切りまでに間に合わず、結局本校の父兄と生徒の意識の差の究明になってしまった。今後に期す所もあるが、この研究に御協力を頂いた本校PTA会長奥田孝美氏はじめ役員の皆様にはあつく謝意を表する次第である。なお本研究には昭和55年度文部省科学研究費(奨励研究B)の交付をうけた。付記して謝意を表したい。

- ※(1) 都築・倉田・富田「中等教育についての父兄の社会意識」名大教育学部附属研究紀要 第21集
- (2) 都築・倉田・富田「父母の教育要求についての世代論的分析」同紀要 第23集
- (3) 麻生誠「甘え学歴社会の構造 ヨーロッパ・アメリカ・日本の教育風土」(有斐閣)